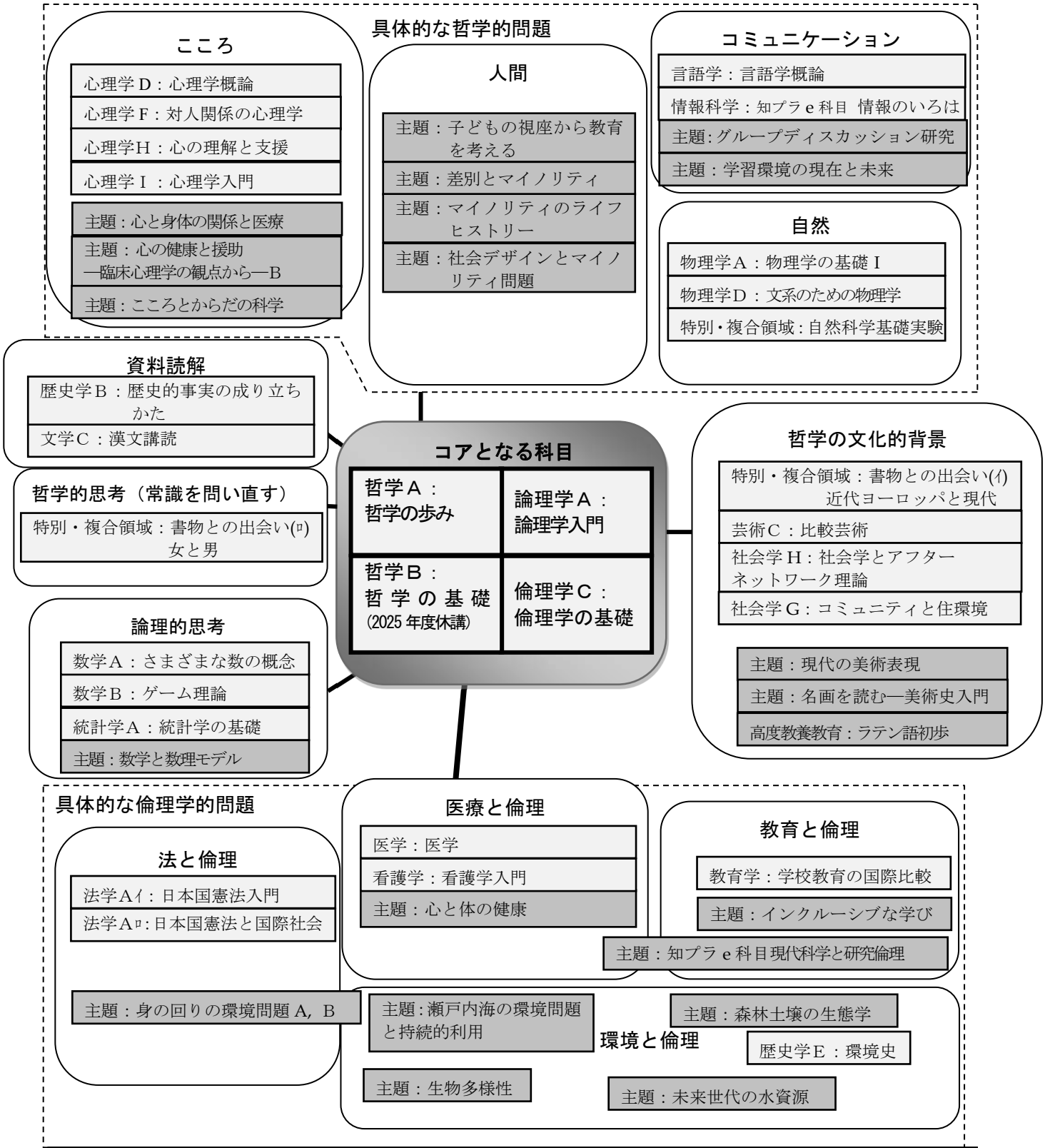
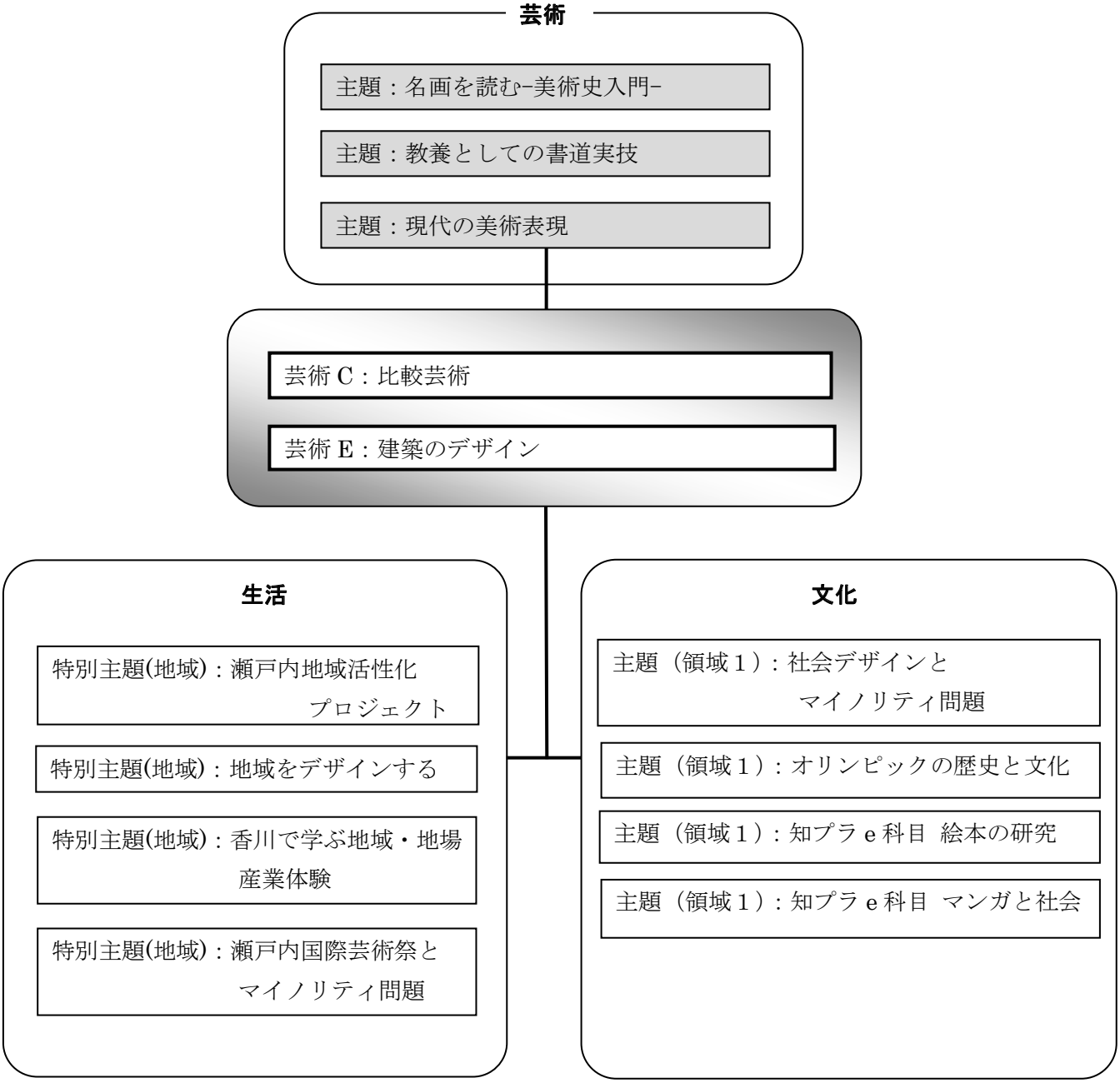
全学共通科目個別相関図（哲学・倫理学）



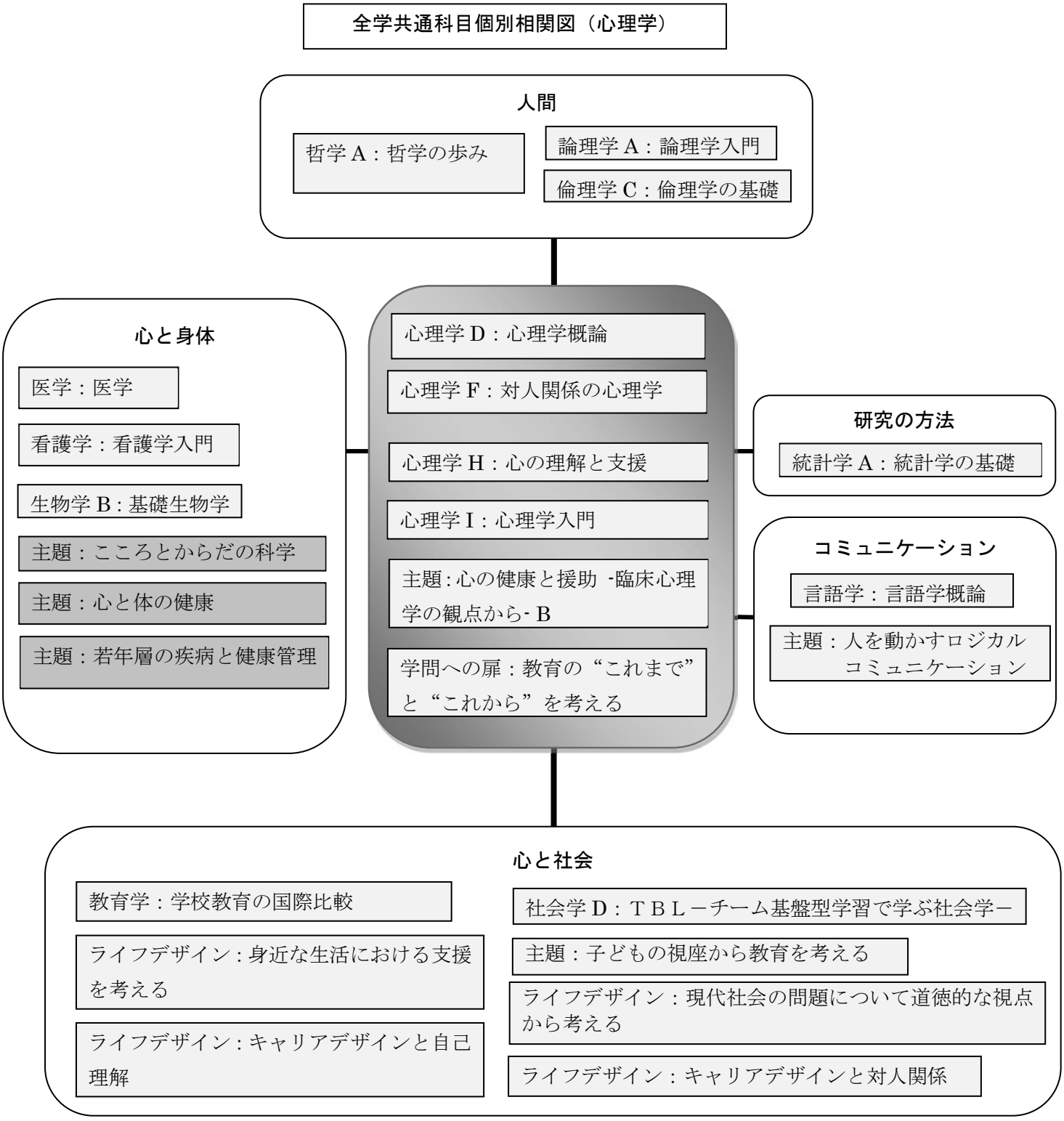
哲学・倫理学科目領域の概要：一般に哲学は、厳密な論理をつかって、「人間とはなにか」、「世界とはなにか」、「善とはなにか」といった原理的な問題について探究する学問、として理解されています。コアとなる科目のうち「哲学 A」、「哲学 B」では哲学の歴史や哲学的な思考法に焦点を絞って授業が進められます。その他、「人間関係における規範」を取り扱う哲学の一分野、「倫理学」については、別に授業が開講されていますし（「倫理学Ｃ」）、哲学の重要なツールである「論理」については、「論理学Ａ」で基礎から学ぶことができます。コアとなる科目では、基礎的な部分が取り上げられますが、応用編ともいえる具体的な問題や、方法論の応用法、文化的な背景については、上記の関連科目で学修できます。

全学共通科目個別相関図（芸術）

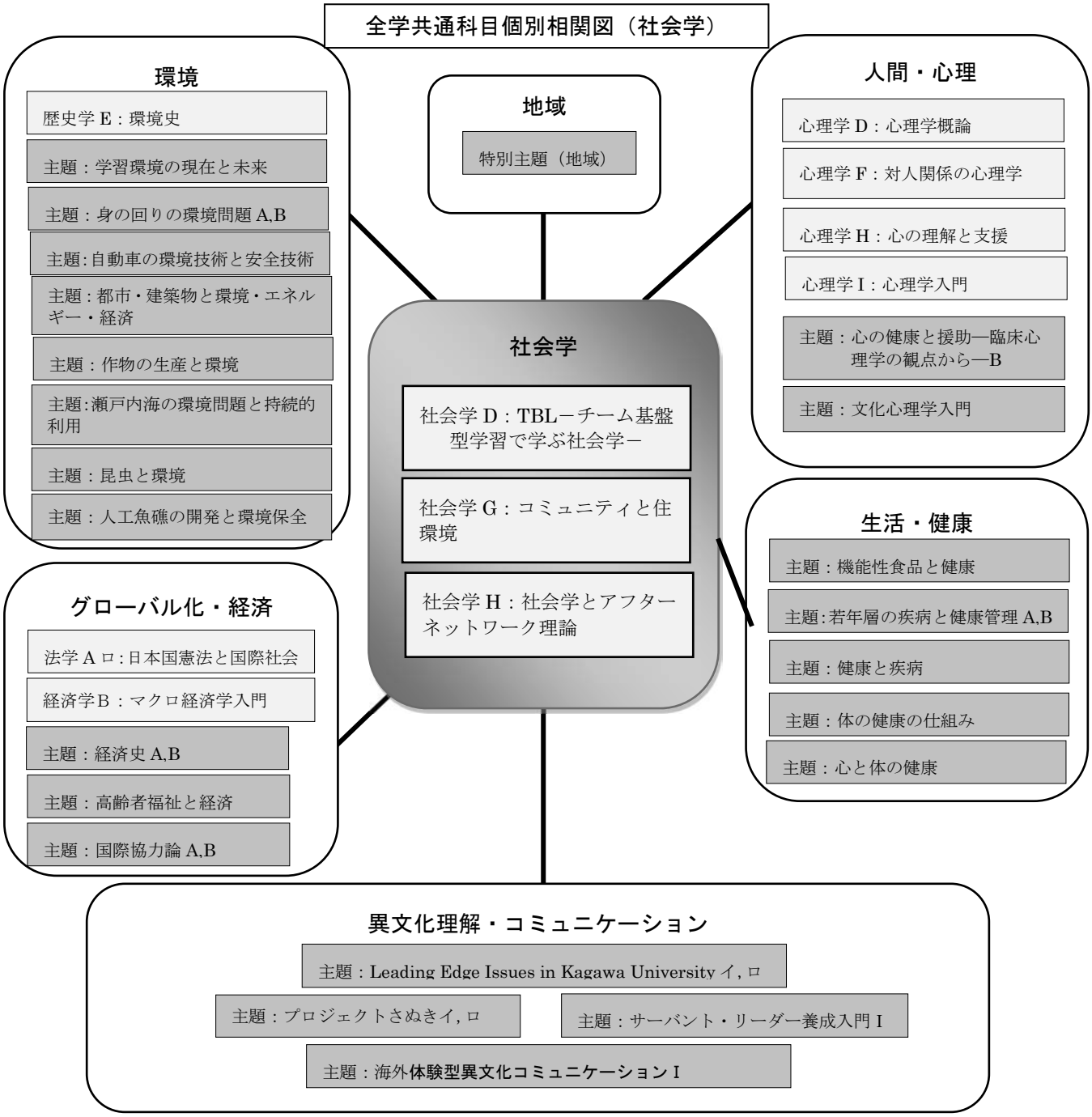


芸術分野の概要：「芸術とは何か？」　人はパンだけでは生きてはいけません。思考力と感性力を持つ人間は、「生きている」実感を得るために、具象・抽象を問わず、心的・内的な表現活動を続けてきました。その背景には、様々な価値観によって育まれてきた〈文化〉が存在します。「異文化コミュニケーション」や「言葉の世界」、更には「観光」などは、言語を媒介とし、生活に密着した大切な文化活動（心の活動）です。ブルクハルトは、人類の歴史そのものを〈芸術作品〉と称しているほどですが、表現活動の中でも特に、磨き上げられた技術と研ぎ澄まされた精神によって生み出された形のある〈芸術〉作品は、時代を超えてその輝きを増し加え、今も私たちに強いメッセージを発信続けています。その二つの重要な特性の理解を深めることによって、一人一人の問題である「生きるとは何か？」への手がかりが導き出されていくものと考えます。

全学共通科目個別相関図（心理学）

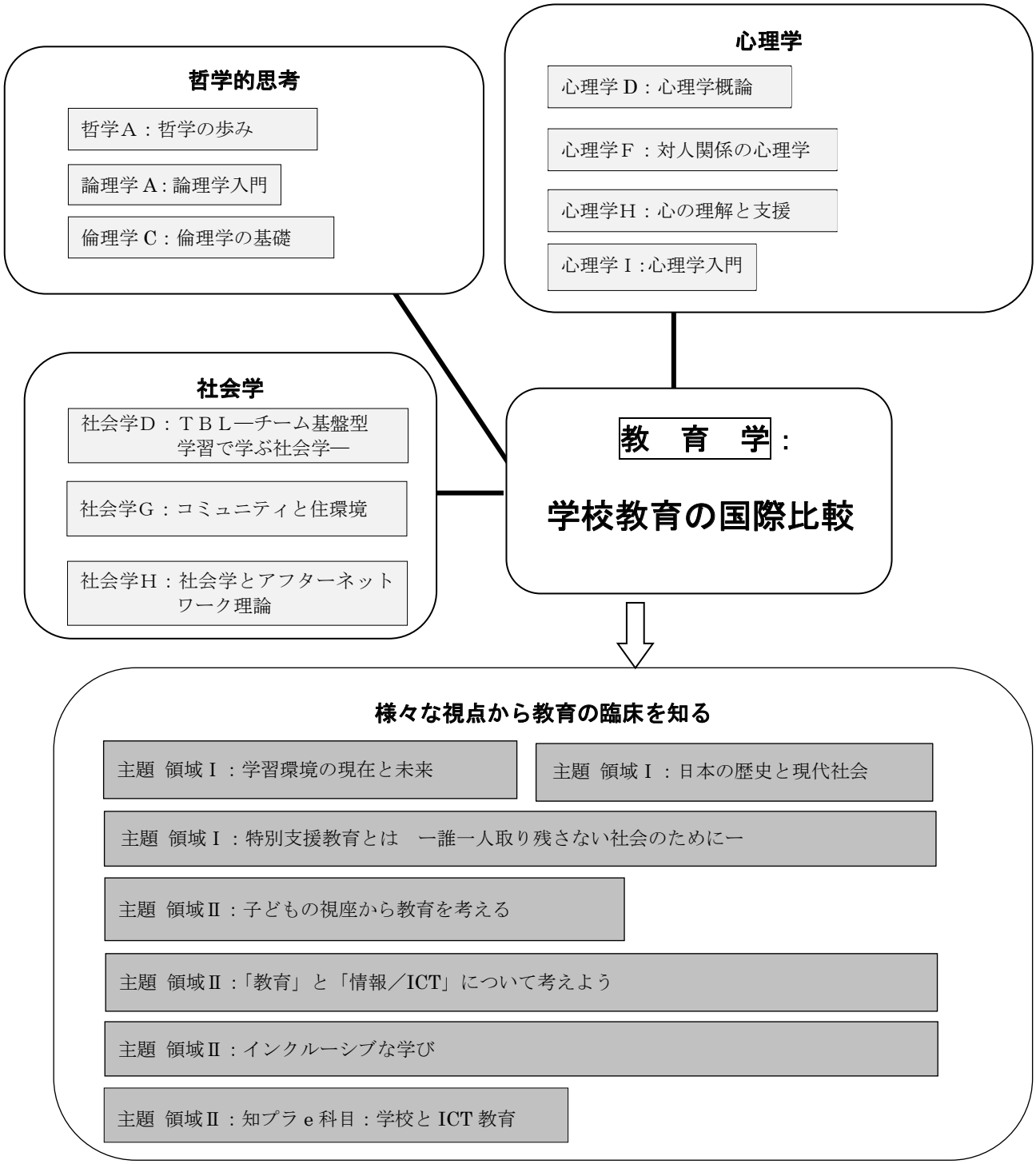


心理学分野の概要：心理学は心の働きや行動について実証的に明らかにしようとする学問です。心理学には、教育心理学、発達心理学、社会心理学、認知心理学、臨床心理学など様々な領域があります。上記のコア科目のうち、「心理学 D」、「心理学 I」では、心理学の基礎を幅広く学習することができます。また「心理学 F」では私たちを取り巻く対人関係と人間の行動や認知の関連について学びます。「心理学 H」では臨床心理学の基礎を、主題「心の健康と援助-B」では臨床心理学の観点から心の健康について学びます。関連の深い領域やテーマについては、上記の関連科目で学習することができます。



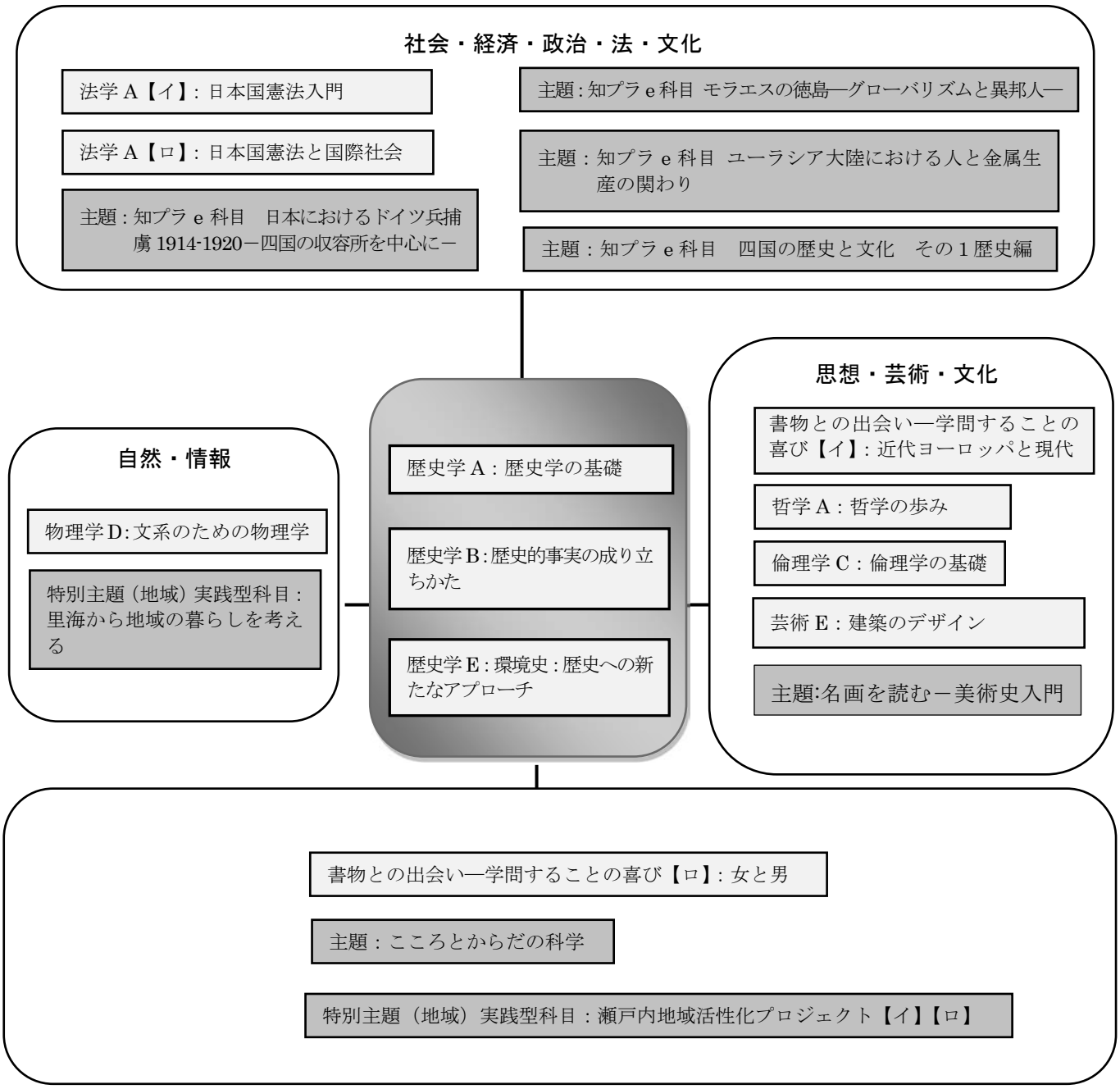
社会学分野の概要：社会学の研究対象は多様であるため、捉えどころのない（「何でもあり」？）学問との印象を与えがちです。3 つ用意されているコア科目でも授業テーマはそれぞれ別々です。しかしテーマは何であれ、社会学に独自の「ものの見方」といったものがあります。といいますか、社会学は研究の対象（テーマ）ではなく、そのような「ものの見方」に特徴がある学問なのです。それは、現代社会を形作るマクロな制度的構造や文化的価値体系をローカルな日常生活との関連において捉え直そうとする視点です。コア科目ではそのような「社会学的想像力」の習得を目指すことになります。社会学に関係する科目は多岐にわたりますが、その代表的なものを上に掲げました。これらの科目群はいずれも現代の人間・社会を考える上で重要な意味をもつものであり、社会学的な発想を応用するための貴重な素材となるものです。

全学共通科目個別相関図（教育学）



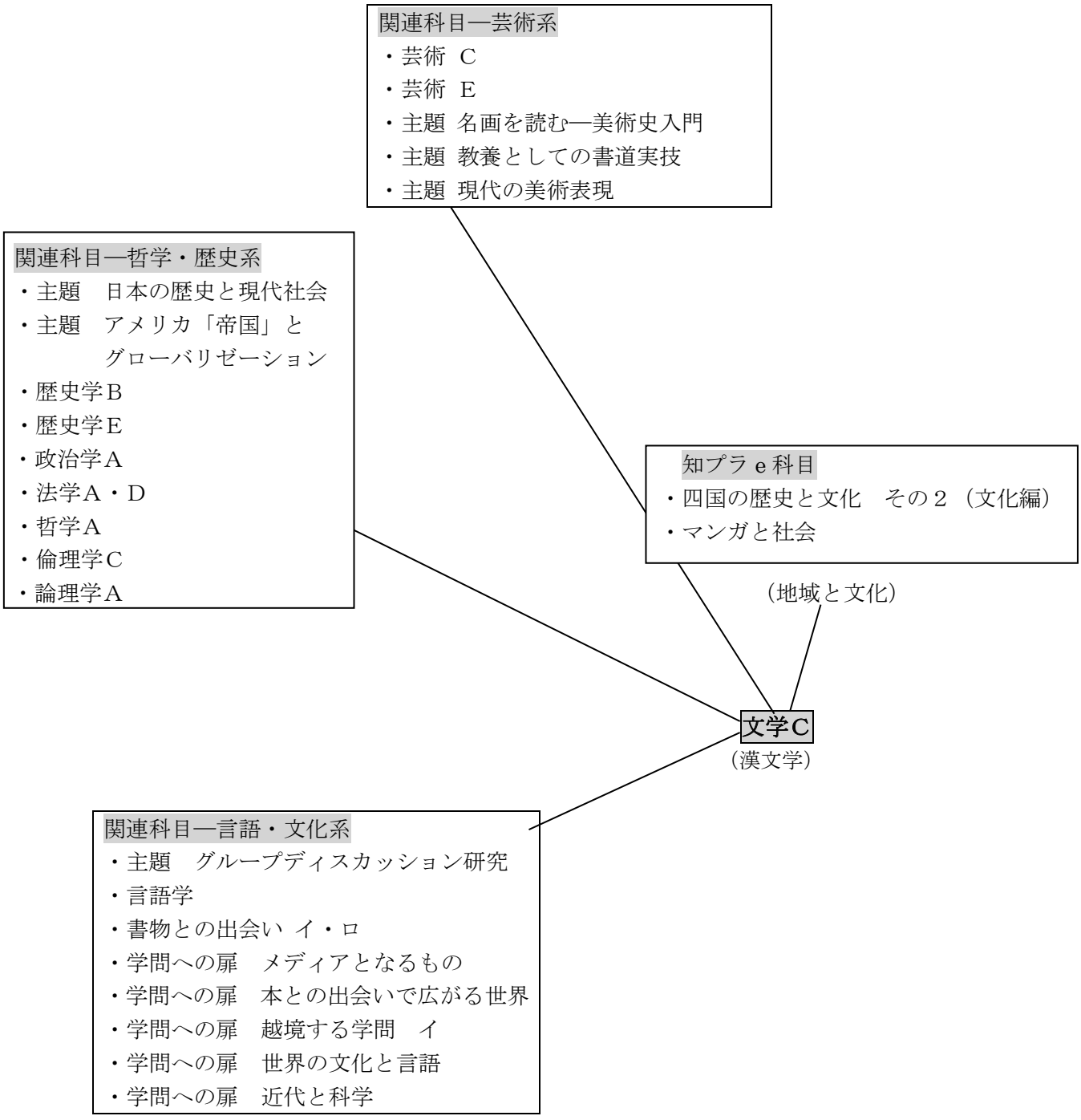
教育学分野の概要：教育学は、わたしたちの教育経験の反省に根ざした学問です。この授業では、いくつかの臨床教育上の「問題」やトピックスを取り上げながら、学校における教師と子どもの人間関係や教育的援助のあり方について、皆さんと一緒に考えていきます。「教育」を理解するためには、教育学以外に、哲学、心理学、社会学など様々な学問が補助科学として理解を促すはずです。もちろん主題科目のなかに「教育」そのものを主題にした授業もあります。是非そちらも受講してみて下さい。

全学共通科目個別相関図（歴史学）



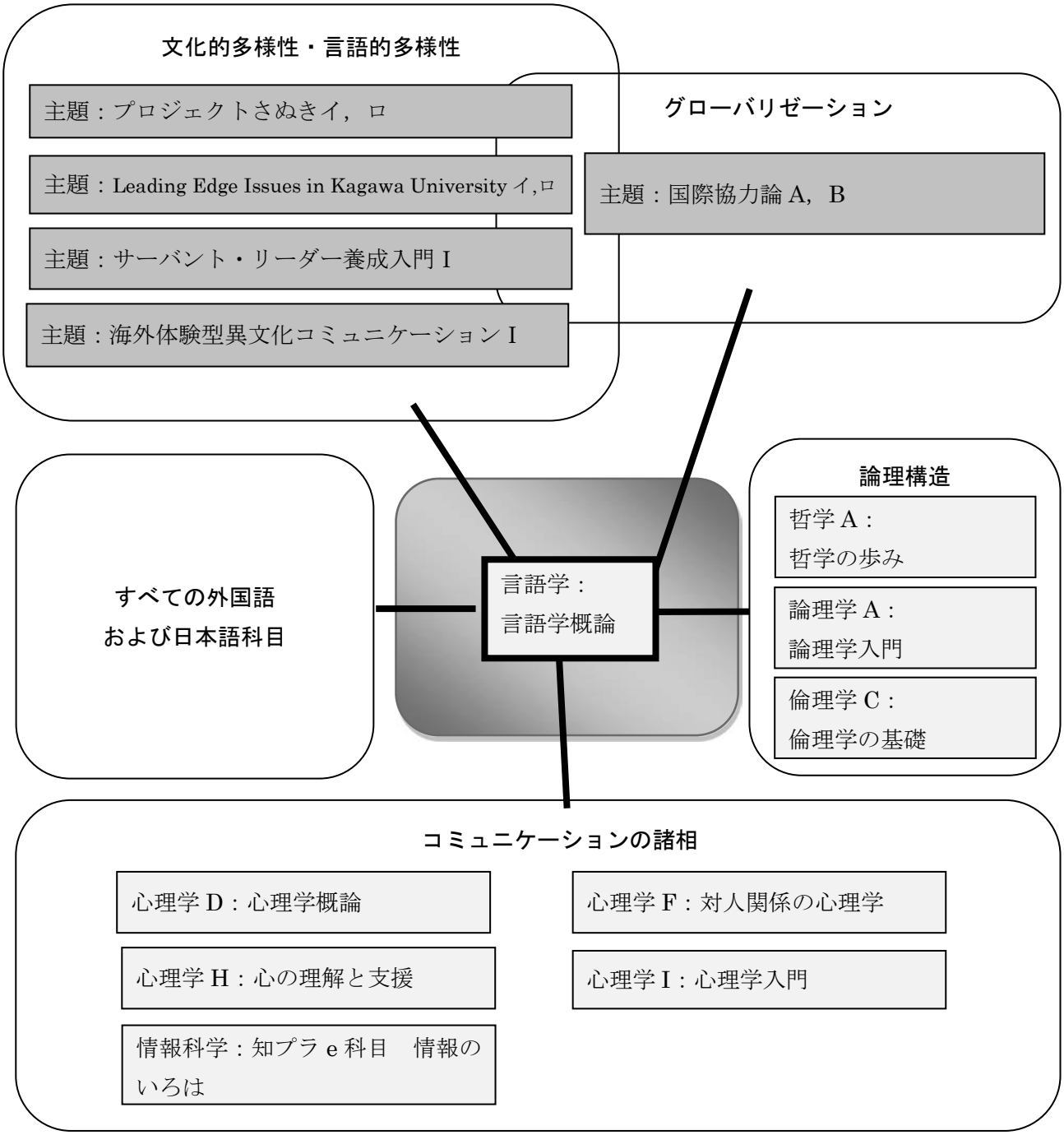
歴史学分野の概要：歴史学は史料に基づき過去を再構成する学問です。歴史叙述としては、古代ギリシアや古代中国から存在しますが、厳密な史料批判に基づく学問としては 19 世紀に成立しました。その時の史料の中心は政治的文書でした。現在、史料は絵画資料や映像などを含んで多岐に及んでいます。それら残された史料の批判的検討を経ていかに過去を再構成するかが重要です。コア科目では具体的な歴史的事象に即して、史料の特徴や歴史的なものの見方、歴史的研究法を学びます。この相関図は二つのことを示しています。まず一つは、歴史の対象が及んでいる範囲です。また、歴史的思考は単に過去を懐古的趣味的に振り返るのではなく、現代への関心と結びついているので、現在の関心がいかに歴史的思考と結びつくかを比較的よく示している講義群をあげています。各自の関心に従ってさらに学びを深めたり、他の学問とどのように関わっているかを知る一つの道しるべとして相関図を利用して下さい。

全学共通科目個別相関図（文学）



文学分野の概要：試みに「文学」を手元の漢和辞典で引くと、第一義に「学問、学芸」とあり、日本で歴史的に形成されたところの、小説などの文芸を中心とした「文学」のイメージとは異なっている。いまも現実の「文学」という分野は「学問、学芸」的な側面をやめていないのだが、それは細分化された現代の学問の中では異端的で、人間の精神の働きを広く批評的に描き出す独特な営みである。だから「文学」に関心を持つならば、上図の他にも関心を向けるべき分野が多くあり、そうしなければならない。学生諸君には、上図には縛られない、積極的な他分野の履修を勧めたい。そうした他分野の知識が、「文学」理解の基礎となり、また逆に「文学」の理解が、他分野の理解の基礎にもなる。そうした相関性の中で、柔軟かつ未熟な自己を相対化し「知」へとさしむける努力を積み重ねることこそが求められている。

全学共通科目個別相関図（言語学）



言語学分野の概要：言語学は，言うまでもなく言語のことを研究する学問領域です．そして，およそ人文社会科学で言語に関わりのないものはないですから，文科系のあらゆる学問分野と接合面を持ちます．また言語は，生物種としてのヒトだけが有する一種の能力でもありますから，脳科学や遺伝子学，また情報科学や認知科学などの理系分野とも深い関わり合いがあります．こうなると，言語学と関連性を有する学問分野は枚挙に暇がありません．その意味で上図は，「言語学概論」で扱う内容と全学共通科目のラインナップを見比べて，とくに関わりの深い科目にしぼった相関図です．「言語学概論」では，とりわけ世界の言語の多様性に言及します．主題の領域 I「経済・社会・文化」には関わりが強い科目が多くあります．もちろん，初修既修を問わずすべての語学系科目とも関わります．

全学共通科目個別相関図（法学）

政治・経済・社会

政治

- 政治学A：日本の政治

経済

- 経済学B：マクロ経済学入門
- 経済学A：ミクロ経済学入門
- 数学B：ゲーム理論
- 統計学A：統計学の基礎
- 主題：銀行と金融

社会

- 社会学D：ＴＢＬーチーム基盤型学習で学ぶ社会学ー
- 社会学G：コミュニティと住環境
- 社会学H：社会学とアフターネットワーク理論
- 主題：株式会社の仕組みと機能A・B
- 主題：ライフサイクルと行政A・B
- 主題：社会デザインとマイノリティ問題
- 主題：差別とマイノリティ

歴史

- 書物との出会いイ：近代ヨーロッパと現代
- 歴史学B：歴史的事実の成り立ちかた
- 主題：日本の歴史と現代社会
- 歴史学E：環境史-歴史への新たなアプローチ

国際社会

- 主題：国際協力論A・B

法学A（イ）　法学A（ロ）　法学D

哲学・倫理学・論理的思考

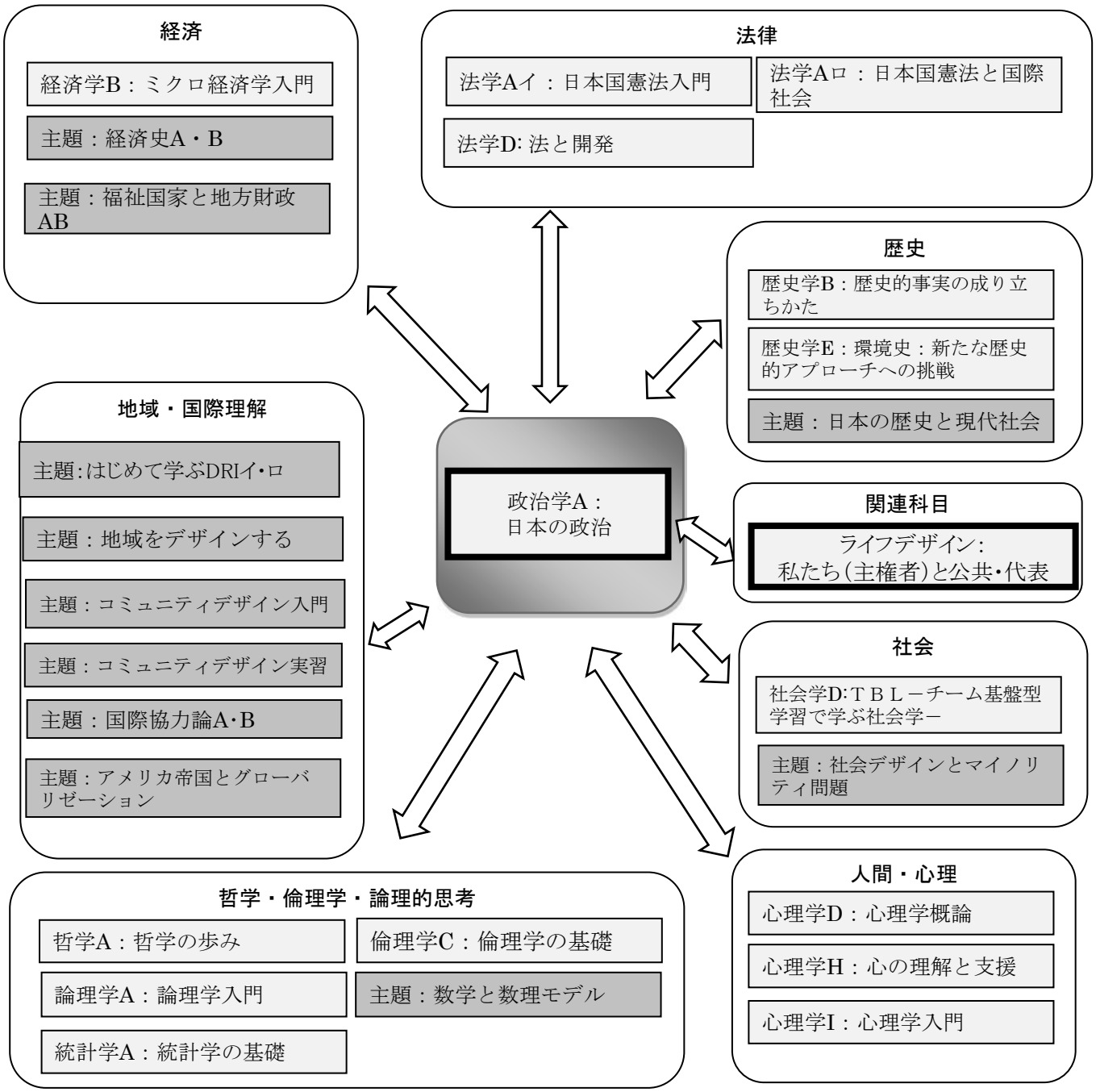
- 書物との出会いイ：近代ヨーロッパと現代
- 哲学A：哲学の歩み
- 論理学A：論理学入門
- 倫理学C：倫理学の基礎
- 数学A：さまざまな数の概念

コミュニケーション

- 書物との出会いロ：女と男
- 言語学：言語学概論
- 心理学D：心理学概論
- 心理学H：心の理解と支援
- 心理学I：心理学入門
- 主題：ヒューマンコミュニケーション
- 主題：人を動かすロジカルコミュニケーション
- 主題：特別支援教育とは　ー誰一人取り残さない社会のためにー

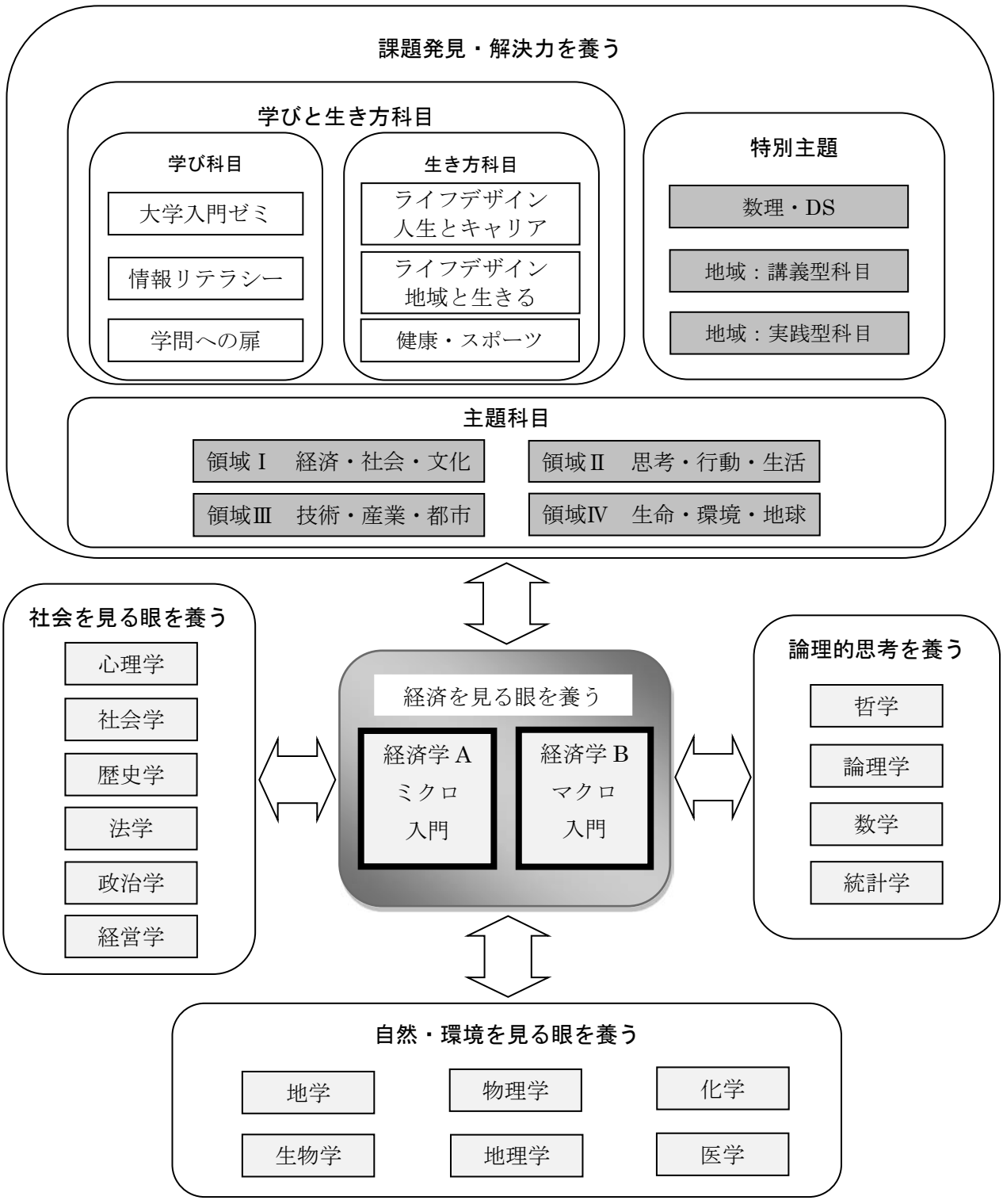
法学分野の概要：法はひとが社会で活動する際のルールの一つで、道徳や宗教と異なり、国家の強制権力の行使と深く結びついています。法は、そのような強制力を背景に、一方で犯罪などの逸脱行為を抑止したり、紛争を解決したり、他方でひとの活動の自由を保障したり、利益を与えたりします。法学は、そのような法が過去・現在においてどうなっているのか、将来どうあるべきかを考える学問です。これは、同時に、社会がどうあるべきかをも我々に問いかけます。法学に近しく感じられる政治学・経済学だけでなく、歴史学・倫理学・社会学の素養も必要です。また法学は、議論・説得を通じてよりよい結論に向けて合意形成をめざす実践学です。その意味で、哲学・論理学などを背景とした論理的思考が求められると共に、他者の考えを知り自分の考えを伝えるコミュニケーション能力も必要となります。

全学共通科目個別相関図（政治学）



政治学分野の概要：政治は、社会における紛争や利害を調整して公的な意思決定を行い、社会全体を統合していく営みだと理解できます。政治学はこうした政治にまつわる現象とその本質について分析・研究する学問であり、古く古代ギリシャにさかのぼる学問といわれています。そこには、政治哲学から有権者の投票行動まで、国際政治から地方自治までというように幅広い研究対象が含まれるとともに、その知的体系は哲学、歴史学、心理学、社会学、経済学、法学などとも交錯しています。上記のコア科目「政治学A」では、第二次世界大戦後の日本政治を対象として、歴史、政治的イデオロギー、利益集団、議会、官僚制、選挙、福祉国家、ジェンダー政治、ポピュリズム政治、安全保障などをトピックとして取り上げ、政治学的な考え方についてみなさんの理解と関心を深めていきます。

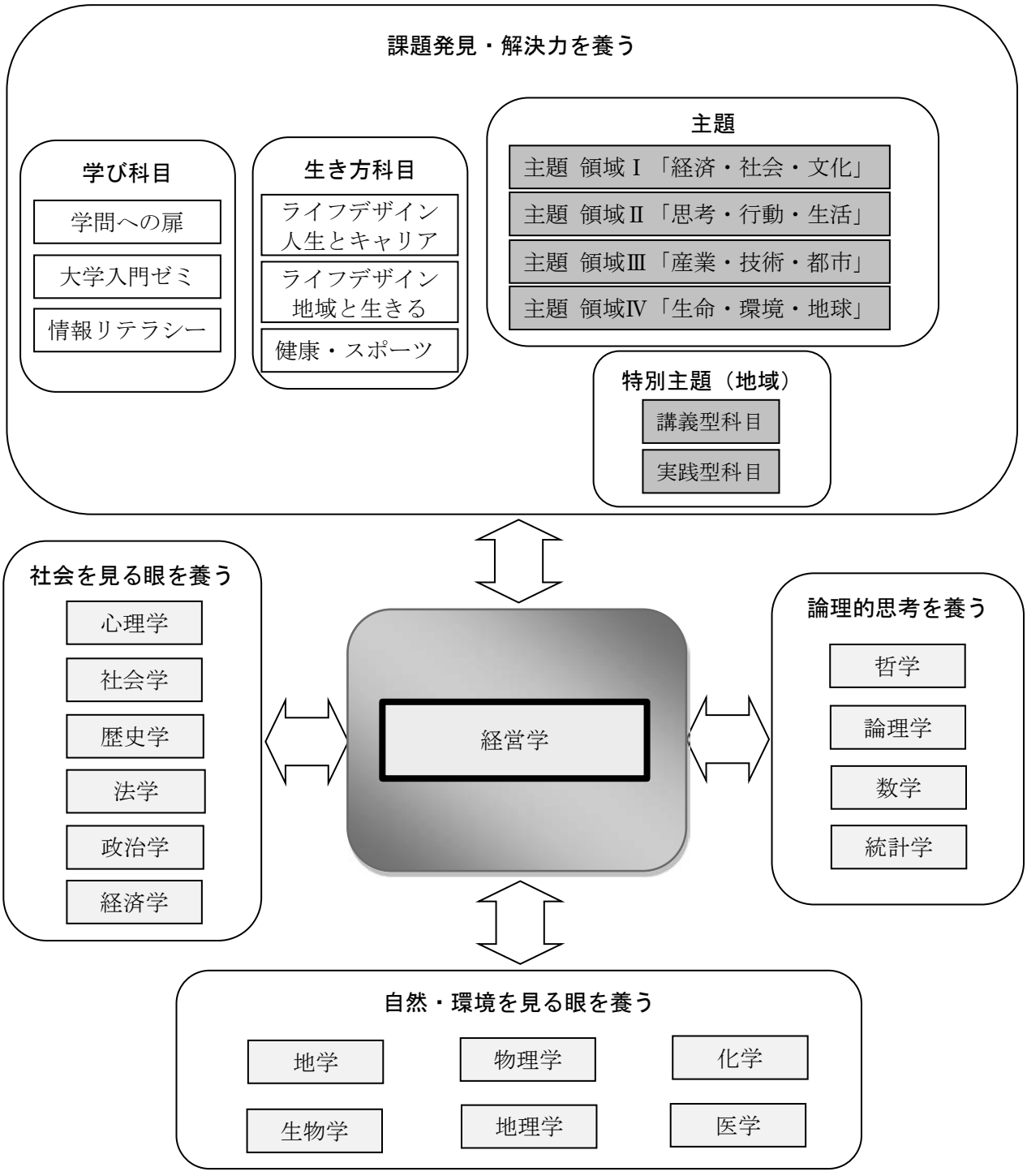
全学共通科目個別相関図（経済学）



経済学分野の概要：人間の経済活動は、技術や自然・環境に大きく左右され、また歴史の影響を受けつつ、様々な地域社会における文化・風土の中で育まれながら営まれています。それゆえ経済活動を十全に理解するためには他の学問分野とのつながりが非常に大切ですし、それによって洞察力も深まります。

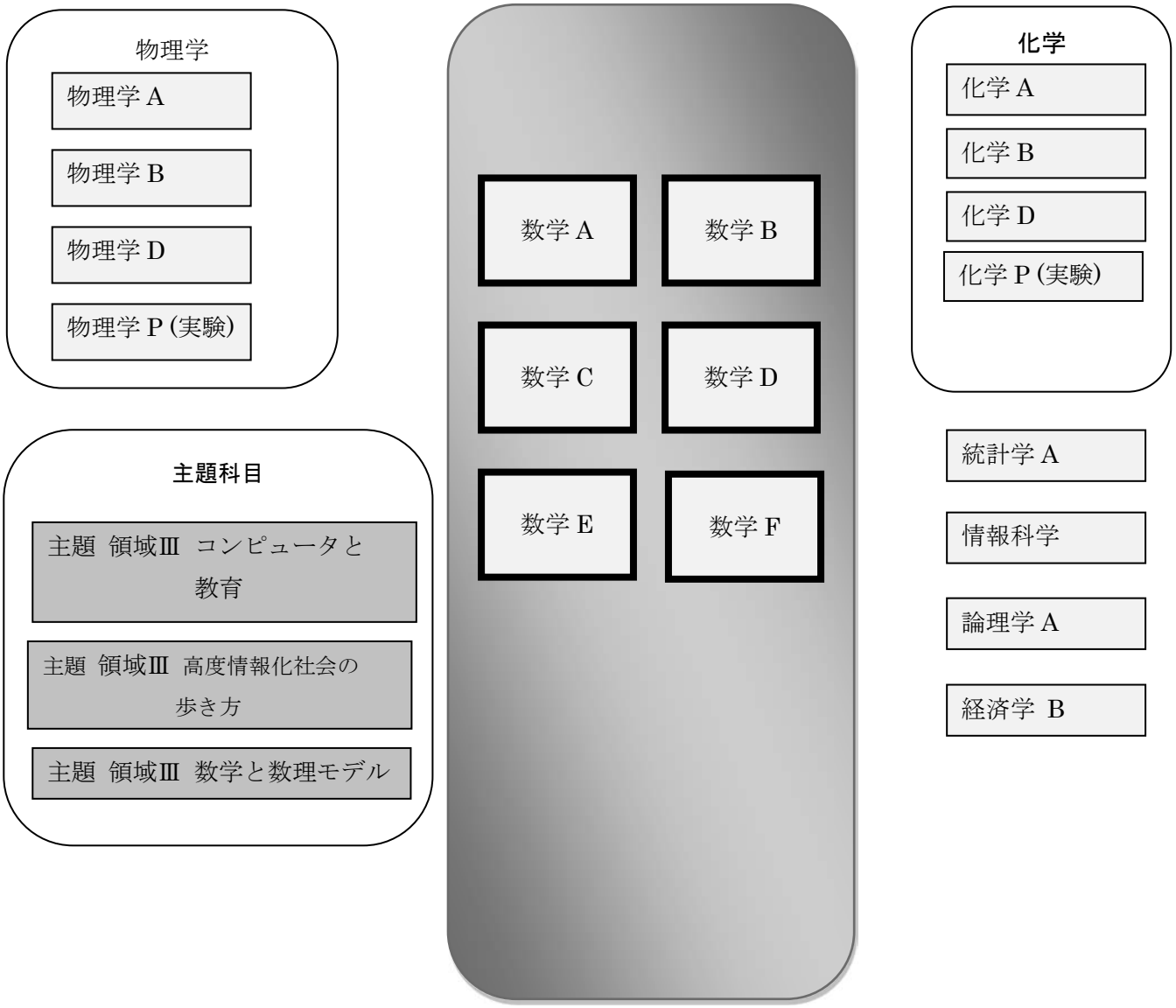
経済学の学問分野には大きく分けてミクロ経済学とマクロ経済学があります。前者は消費者や企業といった経済主体の意思決定や市場経済の仕組みを学ぶのに対し、後者は、国民所得といった経済全体の現象を学びます。「経済学 A」は前者のミクロ経済学の入門を、「経済学 B」は後者のマクロ経済学の入門を扱います。2 つを隔年開講します。

全学共通科目個別相関図（経営学）



経営学分野の概要：経営学には、いろいろなとらえ方があるが、ここでは経営学を「組織体を構成する人間、組織に関する諸課題を扱う学問分野」と定義する。この定義は、広義の経営学とよぶべきものであるが、狭義の経営学は企業という組織体を対象としている。企業は現代社会において重要で大きな影響力をもった組織体であり、経営学は企業という特定の組織体を対象とした領域学というとらえ方がある。経営学の対象となる企業の活動が多岐にわたる諸活動の総体であることから、他の学問分野とのつながりを意識し、学ぶことが不可欠であり、それによって洞察力も深まると言える。

全学共通科目個別相関図（数学）



数学分野の概要：

数学 A 「さまざまな数の概念」 初等整数論から始め、数概念の拡張過程の概括、有限体の基礎、そして簡単な暗号理論への応用までを学びます。

数学 B 「ゲーム理論」 中学生でも分かるレベルの政治・経済現象への応用例を通して、政治分析や経済分析に不可欠な〈非協力ゲーム理論〉の考え方を学んで行きます。

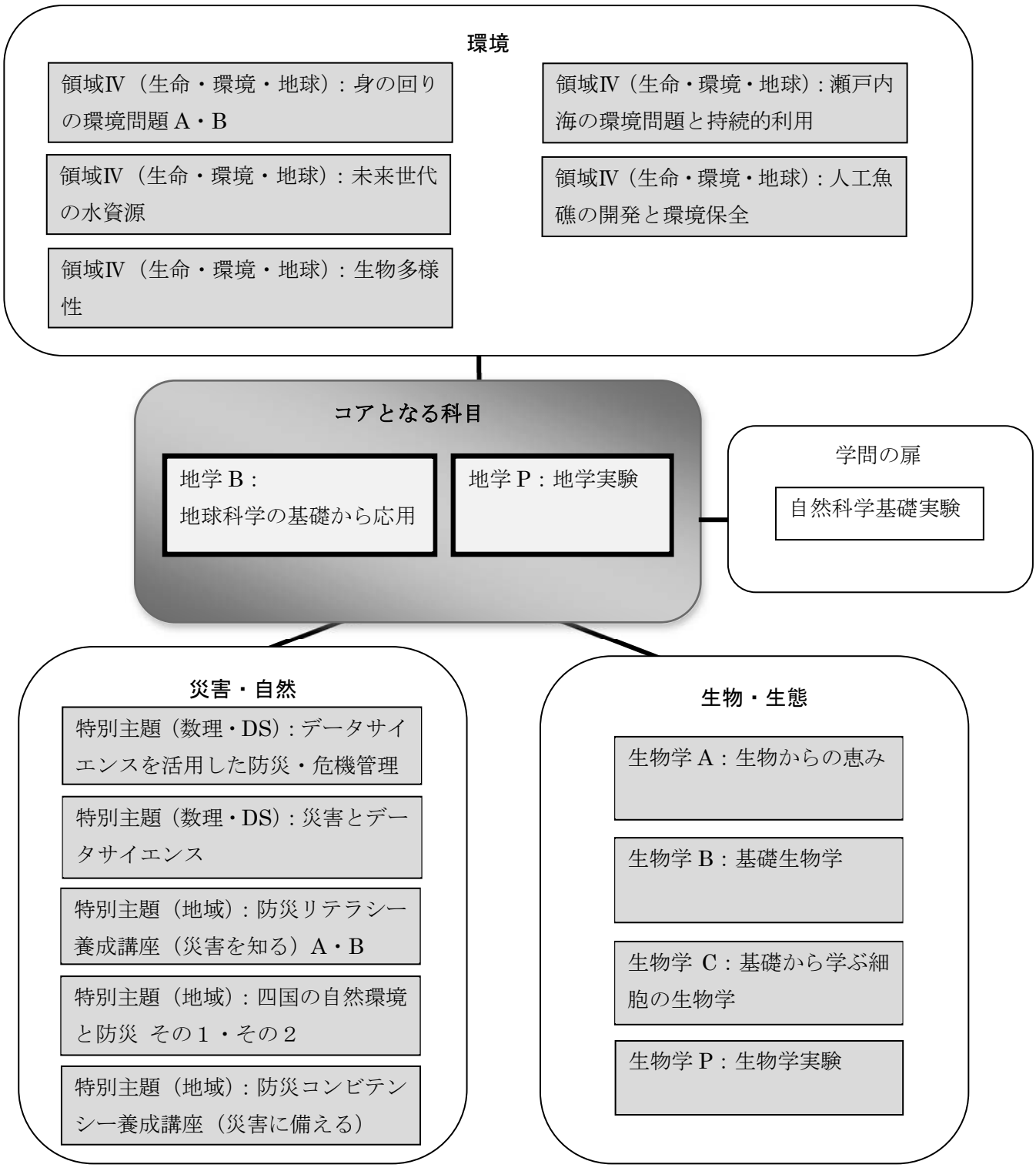
数学 C 「微分積分」 微分と積分の基礎を学びます。主として創造工学部 1 年生向けの科目です。

数学 D 「線形代数」 線形代数(ベクトルと行列)の基礎を学びます。主として創造工学部 1 年生向けの科目です。

数学 E 「確率・統計入門」 自然科学や工学の多くの領域で登場する確率・統計の具体的な計算を通し、数学の本質的部分を理解し論理的思考能力を養います。

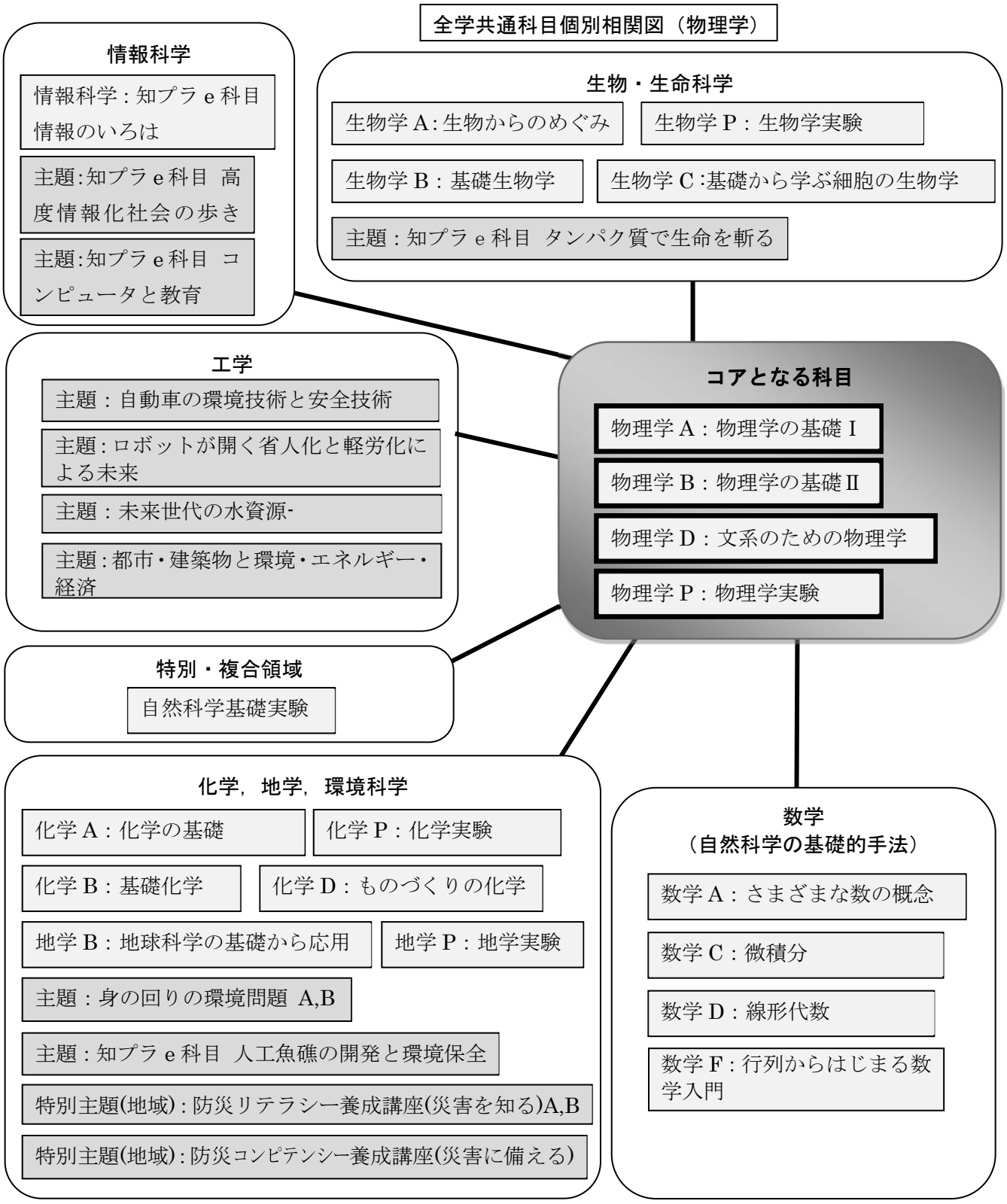
数学 F 「行列から始まる数学入門」 行列とは、数や文字を長方形状に並べ括弧でくくったものである。行列の基本概念や性質に基づき、データサイエンスや経済学、理工学などの分野で重要な役割を果たす線形代数を概説する。

全学共通科目個別相関図（地学）



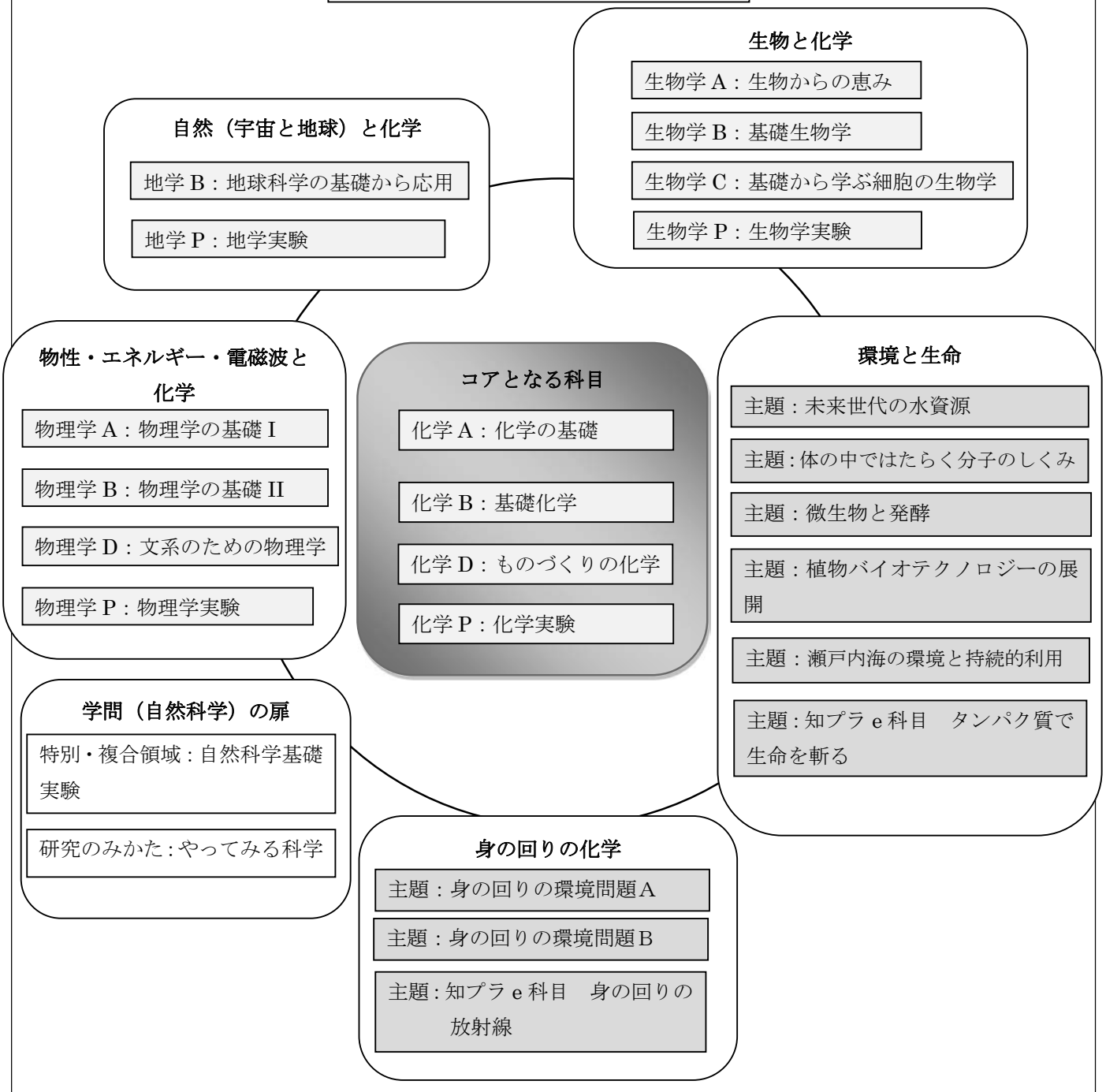
地学分野の概要：地球科学は、地球や生命の誕生から進化、現在の地球上で起きている諸現象、宇宙と地球の相互作用などを理解・解明する学問です。地球科学には、天文学、地質学、気象学など様々な領域があります。上記のコア科目である「地学Ｂ」、「地学Ｐ」では、地球科学の基礎から応用まで幅広く学習します。

全学共通科目個別相関図（物理学）



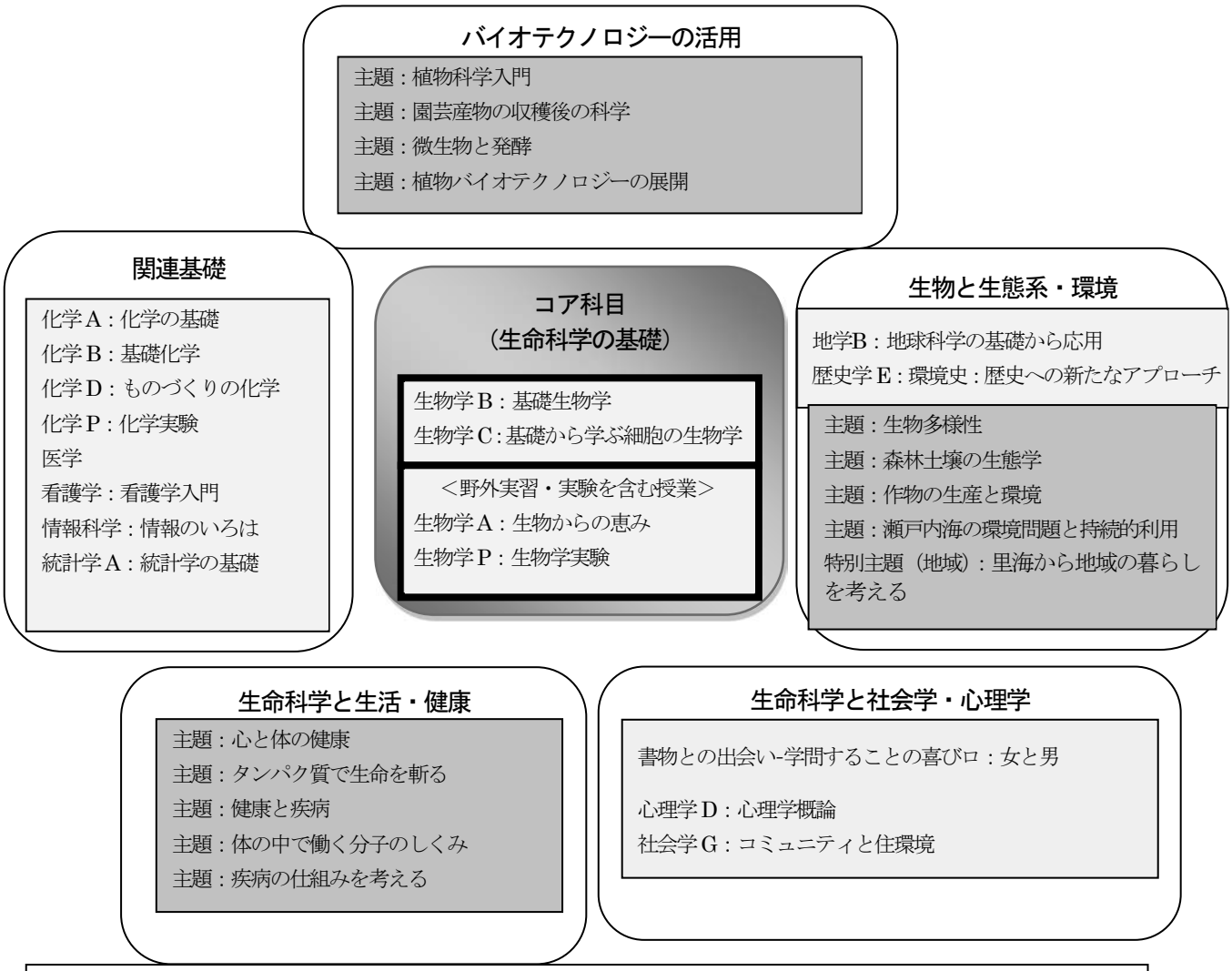
物理学科目領域の概要：物理学は応用数学であり，自然現象をモデル化（数式化）して解く解析手法について学ぶ学問である。そのため，まずツールとして必要な数学的知識を必要とする。また，広く自然現象を取り扱うことから，例えば，情報・通信分野での電気電子回路・電磁気学・光学など，生物系での生体力学など，化学系での原子・分子の動力学など，他の理科科目において必要となる学問である。

全学共通科目個別相関図（化学）



化学科目領域の概要：化学は物質の構造・性質・変化・相互作用について研究する自然科学の一分野で，他の自然科学 3 分野（物理学，地学，生物学）と密接な関係があります。日常生活，生命や環境を理解するには化学が欠かせません。コア科目では，専門科目を履修する上で必要な化学の基礎を学びます。また，関連科目では，化学が私たちの身の回りや周辺の学問領域とどのように関わっているかを学びます。

全学共通科目個別相関図（生物学）

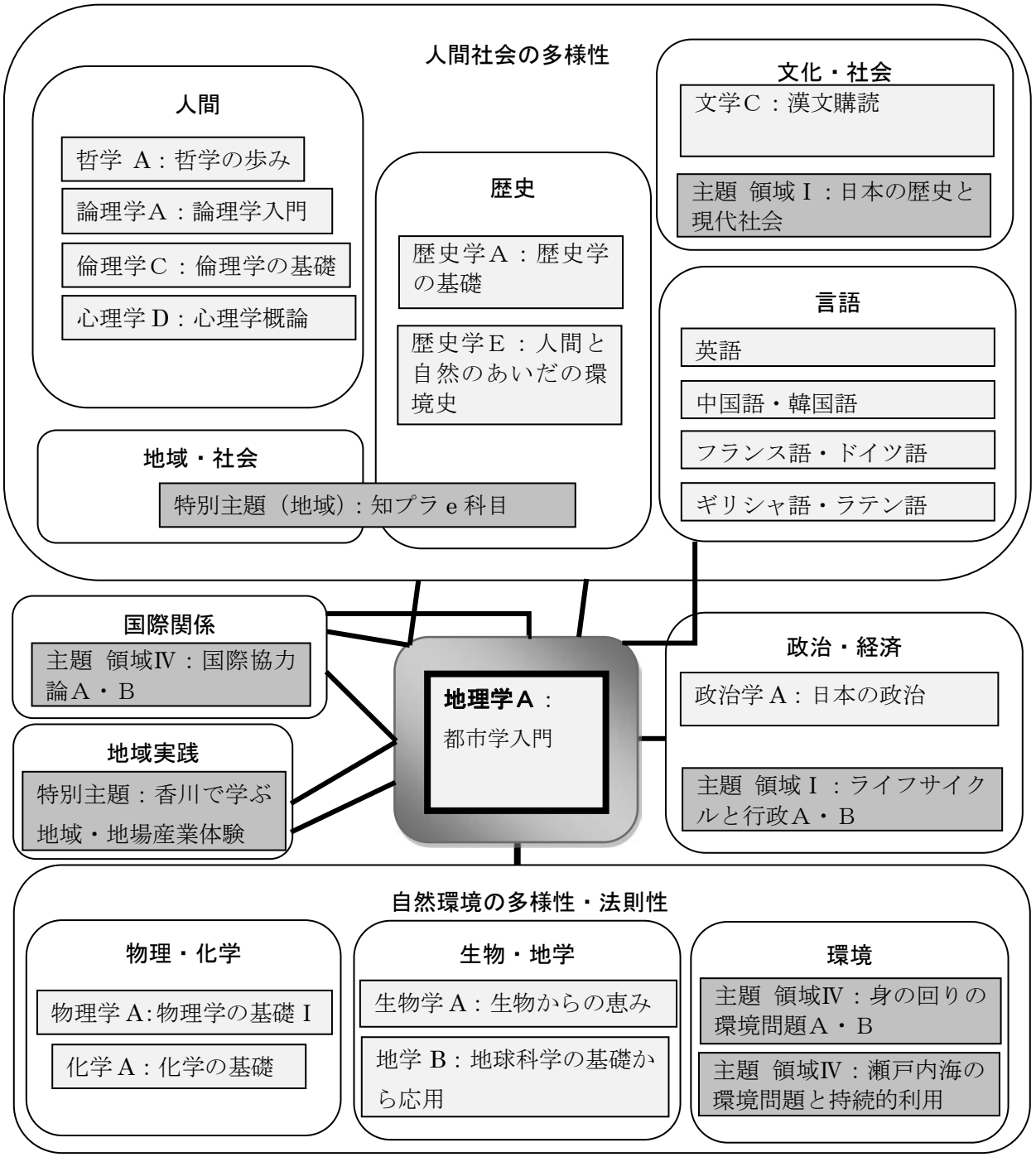


生物学分野の概要

過去数十年における生物学の発展，とくに遺伝子や生態系の構造と機能に係わる側面の理解の進捗は，基礎生物学だけでなく医学・薬学，農林水産学，環境科学そして社会学・経済学や心理学の発展にも大きな影響を及ぼしました。それにともなって高校理科における生物学分野の教科書の内容は大きく改変され，医療や農業生産における過去の考え方や技術も刷新されていきました。さらには，生命の取り扱いに関する倫理，生命の保全・環境問題に対する指針や政策にも生物学の最新の知見が取り込まれ，企業の活動や日々の人間生活の借り方までも変えてきています。従って，理系・文系のいずれを専門とするか，将来どのような進路を選択するかに関わりなく，生物学はあらゆる大学生にとって必修分野の一つです。

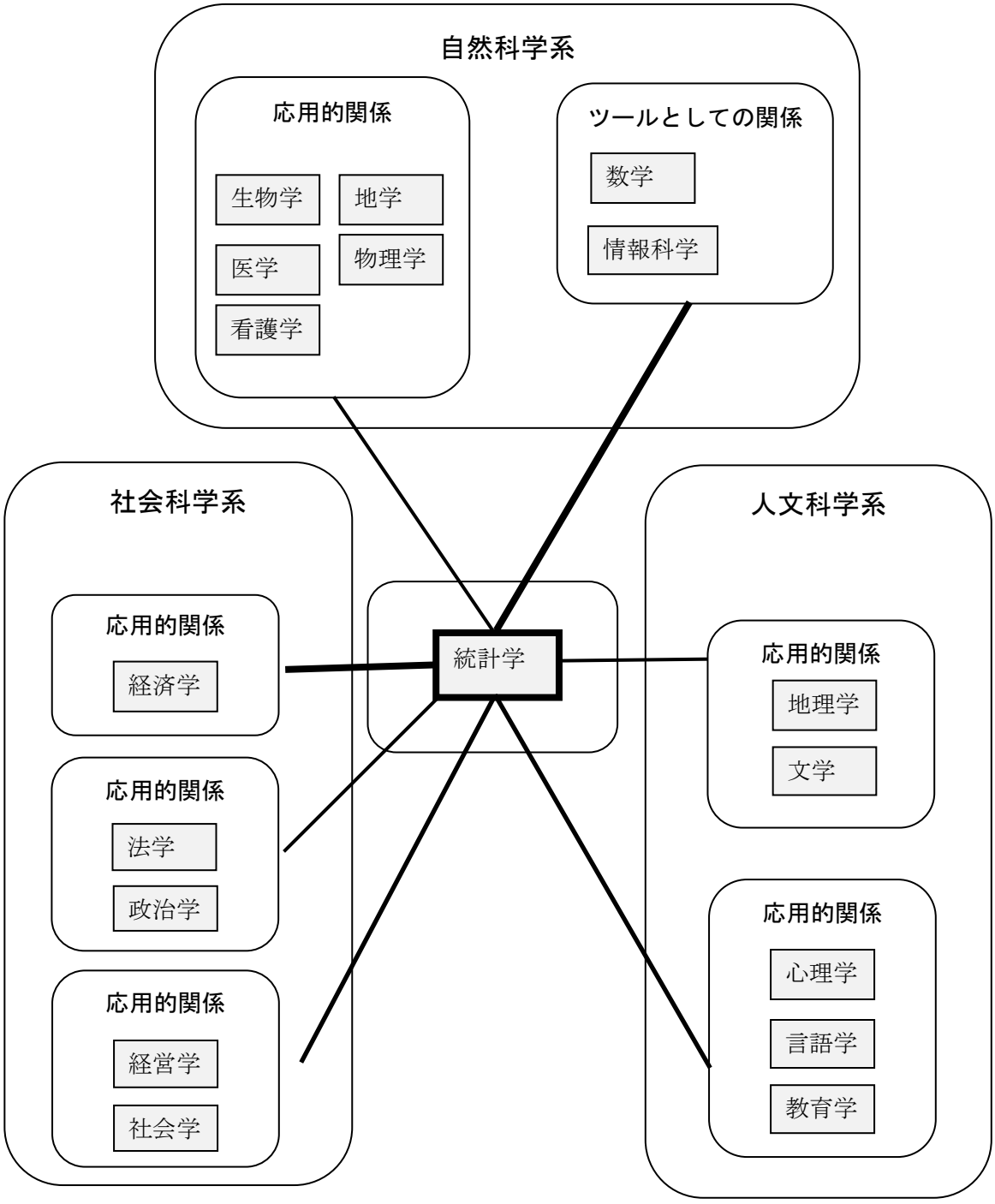
香川大学では，現代社会とそこでの人間生活に必要な生命科学の基礎から，最新の生物学の動向を反映した生命現象に係わる応用技術（バイオテクノロジーなど）や人間生活との係わり（生活・健康，生態系・環境，および社会学・心理学）まで，幅広く学ぶことができる講義科目を提供します。上図の講義群のうちコア科目（生物学）と関連基礎（化学ほか）は，生命科学の理解のための基礎的な知識を提供します。生物学 Aや生物学Pは野外実習や実験を含み，生き物に実際に触れながら実験・観察データの整理・解釈までを実践的・体系的に学ぶことが可能です。その他の講義群は，生物学をベースとした応用・実用そして生物学との係わりを深めている諸分野です。自分の興味を引くタイトルや，関心のある用語（各科目群の見出しや本文中の下線を参照）を辿りながらシラバスを読めば，履修したい科目を見いだせるようになっています。

全学共通科目個別相関図（地理学）



地理学分野の概要：地理学は，「古くて新しい学問」であると言われます。その理由は，遠くギリシャ・ローマ時代にすでに地理学的な考察が始まり，そして現在も小学校から大学に至るまで「地理」を冠する授業科目（分野）が存在することにあります。地理学は，地球表面上の自然環境と人間活動の特徴を，空間的・地域的視点に立脚して解明することを目標としています。大きく，自然環境の地域性を扱う自然地理学，人間社会の地域性を扱う人文地理学，総合的な地域像の構築を目指す地誌学の３分野から成ります。具体的には，さまざまな事象がどのように存在するのか，ある事象がなぜある地域に存在するのか，他の事象とどのような関係にあるのか，それらが歴史的にどのように変化してきたのか，といった観点で考察が行われてきました。

全学共通科目個別相関図（統計学）



統計学科目領域の概要：統計学は他の学問領域との親和性が高く、基本的にデータを扱う学問であればどの分野とも密接な接点を有しています。自然科学系はもちろんのこと、社会科学系や、一見関係ないような人文系の学問においても統計学は有益な学問として利用価値は高いものだ と言えます。ただ、学生には理解することが多少難解だと感じる部分があるようで、学生によっては数学の一分野とでも思っているかもしれません。もちろん、数学や情報処理など継りの強い分野はあるのですが、データを扱う上で多くの分野の学生に役立つ分野と言えます。 最近はコンピュータの発達とともにその存在が身近なものとなり、統計学も他の学問領域とに関係ばかりでなく生活面でも身近な存在になりつつあります。

全学共通科目個別相関図(情報科学)

主題科目

主題　領域Ⅰ「経済・社会・文化」
- 知財管理
- デジタルコンテンツ
- デザイン・ブランドの保護

主題　領域Ⅲ「産業・技術・都市」
- 論理的思考
- コミュニケーション
- 情報数学
- 計算機科学
- 情報モラル
- 教育支援システム
- インタネット、高度情報化社会
- 数理・データサイエンスAI

主題　領域Ⅳ「生命・環境・地球」
- 脳の機能

学びと生き方科目

学び科目　学問への扉
- 自然科学へのいざない
- メディアとなるもの

学問基礎科目

哲学
- 論理的推論、チューリングテスト

論理学
- 論理、非形式論理、意味論

心理学
- 認知、記憶、脳と知覚など

言語学
- 言語、文法、音韻

社会学
- コミュニケーション、メディア

政治学
- 世論とマスメディア

経済学
- ゲーム理論

数学
- ゲーム理論、グラフ

統計学
- 統計・確率

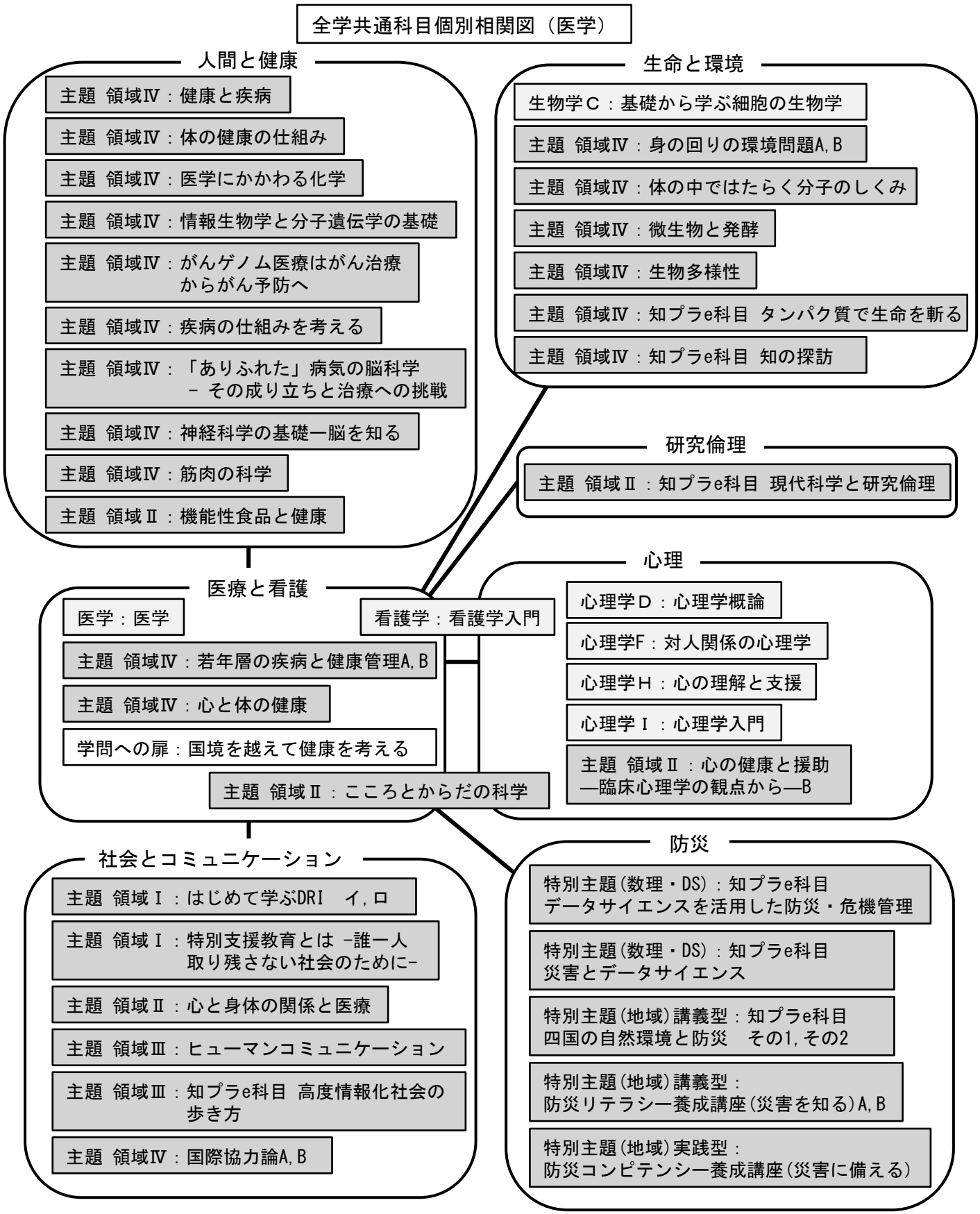
情報科学
- **知覚、認知、感覚、情報量など**

情報リテラシーA・情報リテラシーB

コンピュータ・インタネットの基礎知識、情報倫理とセキュリティ
情報検索・文献検索、コンピュータ・インタネットの利活用
数理・データサイエンスAI

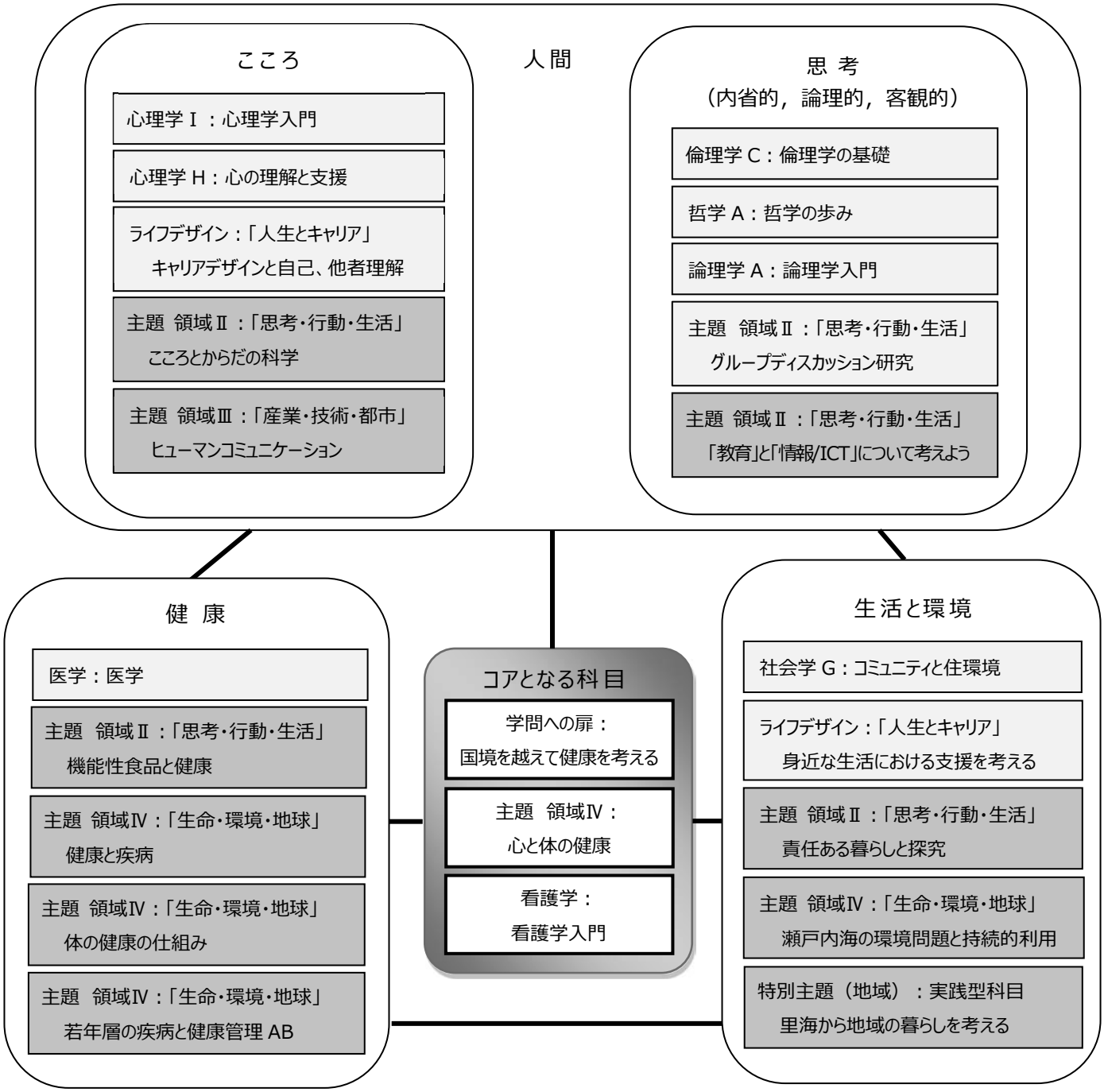
情報科学分野の概要：現代の科学技術の柱は、物質、エネルギー、情報であると言われています。「情報科学」は、その柱の一つである「情報」に関する学問分野です。情報科学は広い領域に展開する学問になりますが、これをどう学んでいくのか説明するのはいささか難しいと考えます。ここでは全学共通科目の観点から、専門的になりすぎず、しかし、的を外さないスタンスで、香川大学で履修できる科目の中で情報科学をいかに学ぶか少しだけアドバイスしたいと思います。まず、香川大学の全ての学生は情報リテラシー科目として、情報リテラシーAと情報リテラシーBを必修科目として履修しなければなりません。これらを通して学ぶ内容には、情報科学に関する内容が多く含まれています。また、主題科目や学問基礎科目にも関連する内容が多少の違いはありますが含まれています。まずは、情報リテラシー科目をベースとして、興味を持った内容について、相関図を参考に探して勉強いただければと思います。あまり、厳密に考えず、気楽な気持ちで、そして、いろいろな視点で「情報って何だろう」と考えてみてください。

全学共通科目個別相関図（医学）



医学分野の概要：医学は、健康な生命体を基本として、疾病の原因と疾病に罹患した時の生命体の変化、そして疾病の診断とその治療という一連の流れを含んでいる。疾病の発生には感染症や栄養状態、生活習慣（食事内容や運動不足）等の要因が関与するが、さらに心理状態や社会経済的状況（災害を含む）もその発症・増悪因子として見逃せないものである。「医学」ではこのうち臨床医学を採り上げ、内科や外科のみならず、幅広い診療科の医師が様々な疾患の概説を行うと共に、現時点でそれぞれの診療科が対応できる先端医療についても触れる。これらの疾病理解により、疾患の早期発見・治療のみならず、疾患の発生予防についても理解を深め実践する。

全学共通科目個別相関図（看護学）



看護学分野の概要：<u>看護とは</u>、広義には、人々の生活の中で営まれるケア、すなわち家庭や近隣における乳幼児、傷病者、高齢者や虚弱者等への世話等を含むものをいう。狭義には、保健師助産師看護師法に定められるところに則り、免許交付を受けた看護職による、保健医療福祉のさまざまな場で行われる実践をいう。**<u>看護の目的</u>**、看護は、あらゆる年代の個人、家族、集団、地域社会を対象とし、対象が本来もつ自然治癒力を発揮しやすい環境を整え、健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和を行い、生涯を通して、その人らしく生を全うすることができるよう身体的・精神的・社会的に支援することを目的としている。看護学を構成する主要概念として、**「人間」「生活と環境」「健康」「看護」**の４つを取り上げる。看護学を理解するためには、これらの主要概念とその関係性を学ぶ必要がある。**<u>看護学</u>**では、看護について幅広い知識を概説するとともに、各看護領域における看護の特徴をわかりやすく紹介する。到達目標は、地域社会における看護の役割、各看護領域における看護の特徴、現状と課題について説明できるようにすることである。